



# 第40回 愛媛形成外科研修会

## 抄録集

日 時 平成29年12月9日(土) 16時00分～  
場 所 四国がんセンター  
本館3階 研修室  
愛媛県松山市南梅本町甲160番地  
TEL: 089-999-1111

当番世話人

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 中岡 啓喜



## 第40回 愛媛形成外科研修会

### 研修会について

1. 参加受付は、15時30分より会場で行います。
2. 参加費として2,000円を受付にて申し受けます。  
今回の特別講演は、日本形成外科学会の「領域講習」に認定されております。  
「領域講習」として受講される専門医の方は受講料として1,000円を申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 一般演題での発表時間は、一題あたり5分と3分、質疑応答は3分を予定しています。
5. PCはWindows7、PowerPoint2013を使用しての発表になります。  
(当日は、USBメモリーあるいはPC本体をお持ちください。)

## 会 歴

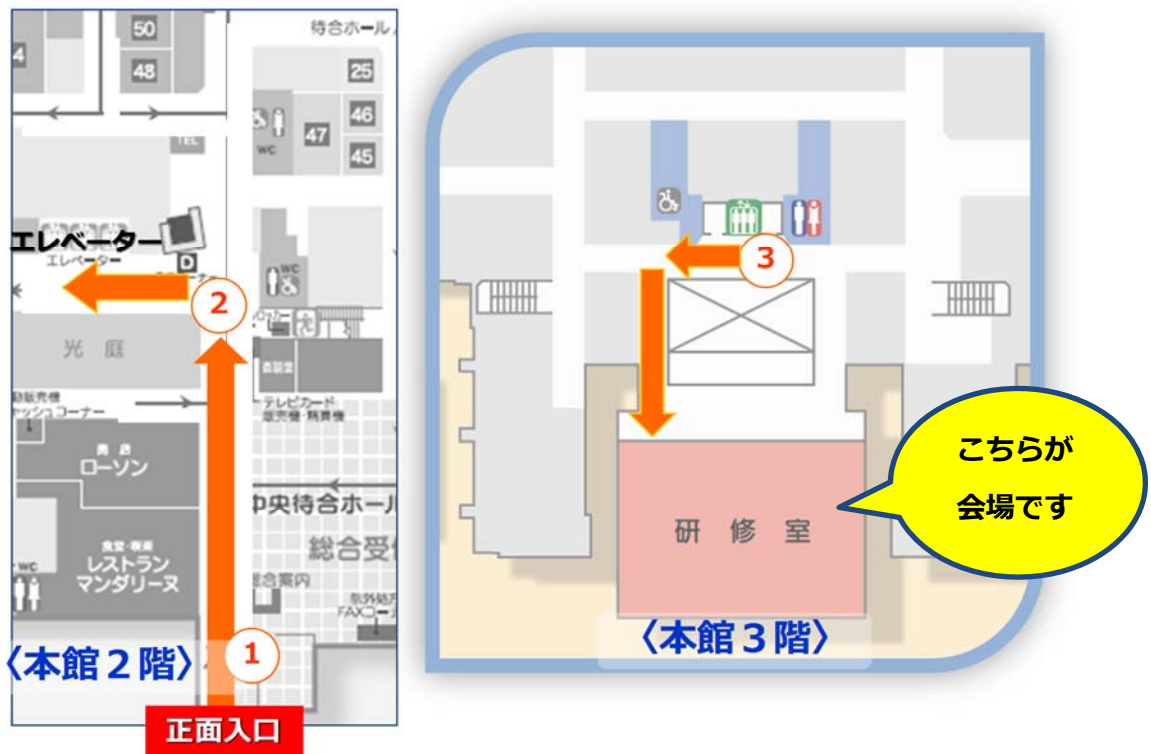
会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名

会期	世話人	会場	日時	参加者
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	28名
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	34名
第26回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成22年12月11日	30名
第27回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年6月18日	31名
第28回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年11月26日	25名
第29回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4階 末広	平成24年6月23日	34名
第30回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成24年12月1日	26名
第31回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成25年6月22日	36名
第32回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2階 楓の間	平成25年11月30日	30名
第33回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成26年6月21日	32名
第34回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成26年11月29日	32名
第35回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成27年6月27日	36名
第36回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	HITO病院 3階 大会議室	平成27年11月21日	27名
第37回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2階多目的ホール	平成28年6月11日	32名
第38回	河村 進 (四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成28年12月10日	30名
第39回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 3階中会議室①②	平成29年6月24日	36名
第40回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 本館 研修室	平成29年12月9日	

## 四国がんセンターへのアクセス



愛媛県松山市南梅本町甲 160 番地 TEL : 089-999-1111 (代)



病院正面入口(①)を中庭(②)まで直進する。中庭を左に曲がり、エレベーターで3階に上がる。エレベーターを降りて(③)右へ進み、左に曲がると会場です。

## プログラム

**一般演題 1～5 (16:00～16:40)** 座長：愛媛大学医学部附属病院 村上 達郎 先生

1. 陰茎異物の1例 (5分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹

2. マンソン孤虫症の1例 (5分)

愛媛県立南宇和病院 皮膚科 森戸 浩明

3. 顔面乳児血管腫に対するプロプラノロール内服療法での治療経験 (5分)

愛媛県立中央病院 形成外科 尾崎 絵美 他

4. ピオクタニンブルーエタノール液2%の穿刺により脂肪壊死をきたした一例 (5分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 松満 紗代子 他

5. 口蓋裂術後の口蓋瘻孔を耳介軟骨移植により閉鎖した一例 (5分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 村上 達郎 他

**一般演題 6～10 (16:40～17:20)** 座長：松山市民病院 松本 麻由 先生

6. 多発脂肪腫が疑われた1例 (3分)

松山赤十字病院 形成外科 松村 辰彦 他

7. 熱傷瘢痕部に生じた脂腺癌の一例 (5分)

市立宇和島病院 形成外科 野澤 竜太 他

8. 頭髪部の術後性脱毛に対しエキスパンダーを用いて修正を行った1例 (5分)

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科 藤田 悟志 他

9. 過去10年間に経験した乳房再建 ～施設・時代毎の変遷を振り返って～ (5分)

広島大学病院 形成外科 永松 将吾 他

10. 治療に難渋している慢性潰瘍を伴う両下腿象皮病の1例 (5分)

愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他

休憩 (10分)

総会 (17:30～17:45)

**特別講演 (17:45～18:45)** 座長：四国がんセンター 河村 進 先生

「顎顔面外科手術での有効な手術アシスト機器」

講師： 愛媛県立中央病院 形成外科 小林 一夫 先生

共催： 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

一般演題 1～5 (16:00～16:40) 座長：愛媛大学医学部附属病院 村上 達郎 先生

1. 陰茎異物の 1 例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

森 秀樹

(5 分)

35 歳、男性。数年前から自分で陰茎皮下に異物を注入していた。最近になって包皮が硬くなり亀頭が露出しなくなったため治療希望して来院した。異物（ワセリン、シリコン）を可及的に摘出して包皮も一部切除した。

2. マンソン孤虫症の 1 例

愛媛県立南宇和病院 皮膚科

森戸 浩明

(5 分)

75 歳、男性。1 週間前に腰部のかゆみの強い皮膚結節に気づいた。皮膚から皮下の不整形軟結節を触知し、間葉系悪性腫瘍も疑い生検したところ乳白色索状の虫体が露出、抵抗なく引き抜けた。虫体はマンソン裂頭条虫のプレロセルコイドと同定された。



## 3. 顔面乳児血管腫に対するプロプラノロール内服療法での治療経験

愛媛県立中央病院 形成外科

○尾崎 絵美、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、石野 憲太郎、田中 克弥

(5分)

乳児血管腫は出生時あるいは出生後まもなく発症する良性血管性腫瘍で、多くは自然消褪するが、発生部位や大きさにより早期の治療を要するものもある。これまで本邦では乳児血管腫に対する適応を有する薬剤はなかったが、プロプラノロール経口服液剤が乳児血管腫の治療として販売承認された。当院でも顔面乳児血管腫に対してプロプラノロール内服で治療を行った症例を経験したので治療経過や効果について若干の考察を加え報告する。

## 4. ピオクタニブルエタノール液2%の穿刺により脂肪壊死をきたした一例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○松満 紗代子、戸澤 麻美、泉本 真美子、木村 千寿、村上 達郎、三宅 啓介、森 秀樹、

中岡 啓喜

(5分)

73歳女性。右座骨部の褥瘡に対して、デブリードマンと後大腿皮弁術を行った。術後2週間経過し、皮弁内に青紫色の潰瘍を生じた。穿通枝マーキングに用いたピオクタニブルエタノール液2%による脂肪壊死と皮膚潰瘍と考え、局所のデブリードマンと陰圧閉鎖療法を追加して治癒に至った。形成外科でよく使用するピオクタニブルエタノール液2%の取り扱いについて見直しを行った。

5. 口蓋裂術後の口蓋瘻孔を耳介軟骨移植により閉鎖した一例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○村上 達郎、泉本 真美子、木村 千寿、松満 紗代子、三宅 啓介、戸澤 麻美、森 秀樹、  
中岡 啓喜

(5分)

9歳、男児。左口唇口蓋裂で、生後3ヵ月に口唇形成術、1歳半で口蓋形成術、5歳で顎裂部腸骨海綿骨移植術を施行。口蓋瘻孔が残存し、7歳時に瘢痕を含む口蓋粘膜弁により閉鎖を試みるも再発した。9歳時に耳介軟骨移植を用いて瘻孔を閉鎖し得たので、若干の文献的考察を加えて報告する。

一般演題 6～10 (16:40～17:20) 座長：松山市民病院 松本 麻由 先生

6. 多発脂肪腫が疑われた1例

松山赤十字病院 形成外科

○松村 辰彦、庄野 佳孝

(3分)

症例は52歳、男性。数年前より後頸部にやわらかい皮下腫瘍を認めた。半年前より左頸部、両前腕にも同様の腫瘍が現れ、徐々に増大してきた。生検で脂肪腫と診断され、摘出術を施行した。10年以上のアルコール多飲歴があり、多発脂肪腫との関連について若干の文献的考察を加えて報告する。

7. 熱傷瘢痕部に生じた脂腺癌の一例

市立宇和島病院 形成外科<sup>1)</sup> 愛媛大学医学部附属病院 形成外科<sup>2)</sup>

○野澤 竜太<sup>1)</sup>、森 秀樹<sup>2)</sup>

(5分)

82歳男性。1年前より右下眼瞼に皮下結節を自覚し徐々に増大してきたため、近医眼科より当院紹介受診した。右下眼瞼に15mm大の皮下硬結を触知し、生検の結果、脂腺癌であった。全身麻酔下に腫瘍を切除した後、頬部回転皮弁での被覆を試みたが、5歳時に右顔面熱傷を受傷しており、皮弁は伸展性に乏しかった。そのため、皮弁を一次欠損部へ移動し、二次欠損部は全層植皮を行った。

8. 頭髪部の術後性脱毛に対しエキスパンダーを用いて修正を行った1例

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科

○藤田 悟志、河村 進、山下 昌宏

(5分)

頭髪部の悪性腫瘍切除後に植皮を行うことで脱毛を伴い、術後に整容面の満足が得られないことがある。今回我々は、頭髪部植皮後の脱毛に対し、エキスパンダーを用いて頭髪部の皮膚を伸展させ修正する手術を行った。症例は50歳代の男性。頭髪部の基底細胞癌切除後に植皮を行い10×8cmの脱毛部を認めていた。最近、エキスパンダーを用いて脱毛部の修正を行った報告がなく、若干の文献的考察を含めて報告する。

9. 過去10年間に経験した乳房再建 ～施設・時代毎の変遷を振り返って～

広島大学病院 形成外科

○永松 将吾、藤岡 弓朗、佐々木 彩乃、横田 和典

(5分)

過去10年間にがんセンター、市中病院、大学病院で約180例に対して乳房再建を行ってきた。この間、転勤以外にも、シリコン製人工乳房・乳房再建専用組織拡張器の保険認可など、乳房再建診療における転換期も経験した。当初は自家組織移植のみであったが、ここ数年間は保険認可となった人工乳房を用いた方法が主体となってきている。各施設および時代毎の特徴・変遷と現状につき報告する。

10. 治療に難渋している慢性潰瘍を伴う両下腿象皮病の 1 例

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、田中 克弥

(5分)

症例は56歳男性。BMI 48の肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症の既往があるが血糖コントロールは良好。8年程前より両下腿皮膚の象皮様変化が起こり、3年前より両下腿潰瘍となった。徐々に増悪傾向で潰瘍範囲が一部全周性のものとなり象皮病も進行し、かかりつけ内科より複数の病院診療科へ紹介されている。2017年6月に当科へも紹介され、当科では受診時の洗浄および自宅での洗浄指導と軟膏治療を行っているがあまり変化はない。今後の治療方針につき諸先生方のご意見を伺いたい。

休憩 (17:20~17:30)

総会 (17:30~17:45)

1. 次回研修会の日程
2. その他

特別講演（17：45～18：45）

座長：四国がんセンター 河村 進 先生

「顎顔面外科手術での有効な手術アシスト機器」

講師： 愛媛県立中央病院 形成外科 小林 一夫 先生

顎顔面外科領域手術は、唇顎口蓋裂、眼窩底骨折、Le Fort 型や下顎骨骨折さらに陳旧性顔面骨折、顎変形症の治療と幅広い領域です。この領域の手術はすでに確立されている手技で行っていますが、術野が狭く、深く、暗いため見えにくく、出血が続きますと次に進めません。そこで可能な限り、内視鏡・顕微鏡や吸引・ライトシステムを使用し直視できる空間を作ることを心がけてきました。

内視鏡を用いて口蓋裂瘻孔に顔面動脈を栄養血管とする粘膜弁作成（FAMM flap）、顕微鏡を用いた眼窩底骨折の再建、内視鏡を使ったプレート固定、実態モデル確認後 Le Fort I 骨切り時にセパレーター使用した down fracture, SSRO の下顎内側を直視下に置いた手術法について供覧します。

当初は術野を鮮明に直視または拡大し、安全、確実にを行う目的で開始しましたが、術者のみならず助手も術野を見ることが可能となり、手術の情報共有や教育にとっても有益であります。

昭和 27 年 長野市生まれ

### 学歴・職歴

- 1980 3 長崎大学医学部卒業
- 1980 5 医師免許取得
- 1984 3 信州大学大学院医学研究科（病理学）卒業  
医学博士 病理学（信州大学）
  
- 1984 4 信州大学医学部助手（病理）
- 1985 4 長崎大学医学部附属病院医員（形成外科）
- 1986 11 宮崎脳神経外科病院 形成外科医長
- 1987 11 北九州総合病院 形成外科副医長
- 1989 9 長崎大学医学部形成外科助手
- 1994 6 Providence Hospital (デトロイト, I. T. Jackson)  
顎顔面外科 Research fellow
- 1996 2 長崎大学形成外科講師
- 1996 6 愛媛県立中央病院 形成外科部長
- 2016 4 愛媛県立中央病院 副院長

趣味 マラソン 3時間41分（2017年）

### 学会活動

- 日本形成外科学会専門医・指導医
- 日本熱傷学会専門医・評議員
- 日本顎顔面学会専門医・評議員
- 日本褥瘡学会評議員
- 日本手外科学会専門医